



黄色い帽子をプレゼント

志布志港湾振興協議会が、市内の小学校新1年生の交通安全を願い、黄色い帽子を贈りました。

4月6日、安楽小学校の入学式において、志布志港湾振興協議会が新1年生に黄色い帽子を贈りました。志布志港湾振興協議会では、毎年、地域交流事業の一環として、市内各小学校の新入児童の交通安全を祈願して、黄色い帽子をプレゼントしています。



サッカー仲間が志布志に集結

SHIBUSHI FOOTBALL FESTIVAL がしおかぜ公園などで開催され、全国から29チームが参加しました。

3月27日から4月1日まで開催された同大会に、遠くは北海道からクラブチームや中学、高校のサッカー部員など約450名が参加しました。

7回目の開催となる同大会は、全国各地のチームと対戦する機会を提供し、競技面の成長のみならず、選手たちの視野を広げることを目的に開催しています。

㈱セビアと立地協定を締結

市と㈱セビア（北九州市）が、県の立会いのもと農産物加工工場の立地協定を締結しました。

4月11日、市役所本庁において調印式が行われました。同社は、当面、志布志町安楽でさつまいもペーストや焼き芋の製造販売を行う予定です。これにより雇用が創出され、また将来的には志布志港を利用した輸出も計画されていることから、志布志港の利用促進、地域経済の発展が期待されます。



子ども食堂は春休みも大盛況

学校給食のない春休みの金曜日に、おいしいカレーを安価で提供する子ども食堂が開かれました。

3月24日と31日、ふるさと大使の田浦天志さんの呼びかけで集まったボランティアの皆さんが、志布志町の井や和華において子ども食堂を開店しました。子ども食堂には、食材や飲み物の提供もあり、合計約140人がカレーなどを楽しみました。子ども食堂は今年の夏休みも開店する予定です。



防犯用ホイッスルをプレゼント

九州労働金庫志布志支店から市内の小学校新1年生309人に防犯用ホイッスルが贈られました。

4月10日、通山小学校で贈呈式が行われ、新1年生30人の代表がホイッスルを受け取りました。未来を担う子どもたちをろうきん全体で支援したいという思いで取り組まれるこの活動は、今年で6回目となります。ホイッスルは、志布志市のほか曾於市、大崎町の新1年生にも贈られました。



ふるさとを明るく、住みよく

てのもんそ会員、泰野地区の住民など40人が、約10,000球の彼岸花を植えました。

3月26日、松山町で活動する水土里サークルてのもんそ会（本村次安会長）の皆さんが、農村景観活動の一環として泰野川沿いや田んぼ周辺などに彼岸花の植栽を行いました。

参加者は「ここ一帯に彼岸花が咲くのが楽しみです」と話してくれました。

志布志線・大隅線の歴史を学習

市埋蔵文化財センター企画展「よみがえる志布志線大隅線の歴史」の入館者数1000人達成セレモニーが行われました。

4月11日、志布志保育園の年長組17名が見学を訪れ、同展の1000人を達成し、記念に列車のぬいぐるみが贈られました。普段公園で見ている機関車の在りし日の勇士を、写真や動画で見た園児からは「いつも見ている機関車の昔の姿を見られて楽しかった」と感想が聞かれました。



バルク港の整備に向け大きく前進

志布志港国際バルク戦略港湾の整備事業化決定を祝して祝賀式典を行いました。

4月3日、市役所本庁において「志布志港国際バルク戦略港湾整備事業化決定」祝賀式典を行いました。穀物バルク船の大型化に対応した施設が早期に整備されることで、南九州地域のみならず、日本全体の畜産業の産業競争力の強化に大きく貢献することが期待されます。

